Ｄelta　Parts　デルタ温度センサー

取扱説明書

この度は、弊社の温度センサー(熱電対)をご検討頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使い下さい。

Ⅰ　取り付ける前に

①　開梱と同時に、製品の点検をして下さい。

製品には、温度センサーの種類が記載されている銘板が付いています。

発注された物と同一であるか また、数量不足や製品に損傷等が無いかご確認下さい。

注意！　温度計・制御器に対応する熱電対の種類とお手元の熱電対の種類が同一な事を確認して下さい。

②　腐食性ガス雰囲気中で使用しないで下さい。断線の原因になります。

警告！　スリーブ部　(樹脂固定接続部)・補償導線には、水をかけない事。

水がかかり、そのまま使用すると温度表示異常の原因になります。

Ⅱ　取り付ける際に

①　温度センサーは、乱暴に取り扱わないで下さい。

温度センサーは、精密機器ですので落下等の衝撃が原因で故障する場合があります。

②　温度計・制御器端子への導線接続時には、極性確認を確実に行って下さい。

温度センサー端子への導線を接続する際は、極性を十分確認して行って下さい。極性を間違えて接続すると大きな誤差が生じ、正しい温度計測が出来ません。

(規格により、補償導線の色別は異なりますから注意が必要です)

また、＋・－の接続を間違えると、温度表示異常を起こすとともに、ヒーターが異常発熱し、火災の原因になります。

(圧着端子付の場合、赤が ＋、白または黒が － です)

警告！　延長する時は、必ず同じ種類の『 補償導線 』を使用する。

一般的な電線などは、絶対に使用しないで下さい

温度表示異常の原因になります。

③　シース型温度センサーの曲げる箇所と曲げ半径に注意して下さい。

現場でシースを曲げる場合は、シース外径の５倍程度以上の（ 弊社温度セン

サーの場合は、半径 20mm 以上 ）半径で曲げて下さい。
シース側温抵抗体の先端部には、抵抗素子が入っていますので、先端から 2／3 長さ以内は、絶対に曲げないで下さい。

Ⅲ　保守・点検

①　温度センサーの現場での分解・修理は行なわないで下さい。

注意！　温度センサーは、使用条件ごとに違う仕様で製作していますので、分解・修理・改造は、絶対に行わないで下さい。

②　温度センサー発注時の用途以外に転用しないで下さい。

Ⅳ　保管に際し

①　温度センサーは、乾燥した清浄な屋内で保管して下さい。

注意！　温度センサーを保管する際は、湿度の高い場所や屋外では、絶縁抵抗が低下する事があります。